

EU Indicators

発表日:2019年1月28日(月)

欧州経済指標コメント:1月ドイツIfo企業景況感

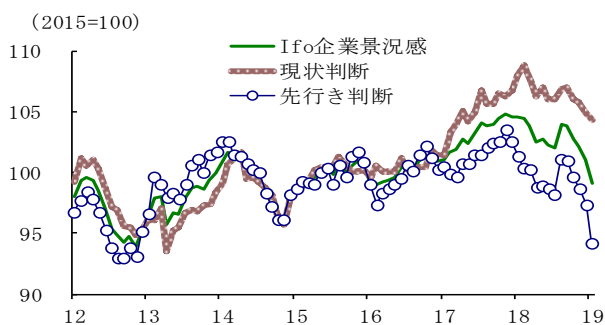
～景気反転ストーリーに暗雲～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

首席エコノミスト 田中 理 (TEL:03-5221-4527)

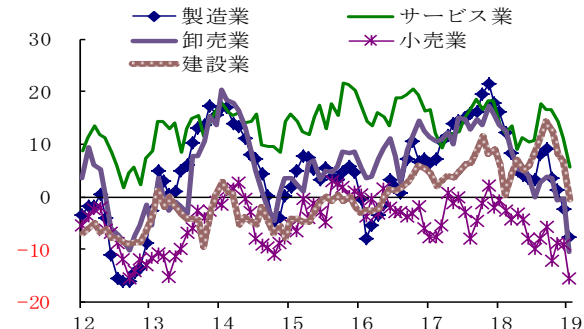
- 25日に発表された1月のドイツIfo企業景況感(2015年=100の指数)は前月差▲1.9ポイント。4ヶ月連続で低下し、2016年2月以来の水準に落ち込んだ。落ち込みを主導したのは、5ヶ月連続で低下した先行き判断。単月の落ち幅としては2011年8月以来となる▲3.1ポイント、2012年11月以来の水準に落ち込んだ。これは現系列が発表される2005年以降でみると、2008-09年の世界的な金融危機時を除けば、2005年と2012年と並ぶボトム圏。現状判断も4ヶ月連続で低下、2016年2月以来の水準に落ち込んだが、こちらは歴史的にみれば高水準を維持している。
- 業種別の現状判断(ゼロが分岐点)は、サービス業(+43.9→+45.0)と卸売業(+29.7→+30.2)のプラス幅が拡大した一方、製造業(+33.8→+32.1)、小売業(+14.0→+13.8)、建設業(+54.1→+42.7)のプラス幅が縮小。業種別の先行き判断は、製造業(▲2.5→▲7.8)、卸売業(▲0.5→▲10.5)、小売業(▲9.0→▲15.6)のマイナス幅が拡大、建設業(+6.9→▲0.5)がマイナス圏に転落、サービス業(+11.3→+5.7)のプラス幅が縮小した。
- 24日に発表された1月のドイツPMIは、製造業が2014年11月以来の50割れを記録した一方で、前月に50割れ目前に迫ったサービス業が切り返し、業況下支えに寄与した。だが、今回のIfoの業種別計数では、内外需部門を問わず、先行き判断の慎重化が目立つ。PMIの雇用判断も徐々に水準を切り下げており、良好な雇用・所得環境が景気を下支えするシナリオに黄信号。

■ドイツ:Ifo企業景況感



出所:Ifo

■ドイツ:業種別の先行きの業況判断



出所:Ifo

■ドイツIfo企業景況感

	2018				2019											
	1Q	2Q	3Q	4Q	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	
企業景況感(総合)	104.3	102.5	103.3	102.0	103.8	102.5	102.8	102.3	102.0	104.0	103.9	102.8	102.2	101.0	99.1	
現状指数	108.1	106.4	106.6	105.6	107.5	106.2	107.0	106.0	106.0	106.9	107.0	106.0	105.8	104.9	104.3	
先行き指数	100.7	98.8	100.1	98.6	100.3	98.8	98.9	98.7	98.2	101.1	101.0	99.7	98.7	97.3	94.2	
業況判断	25.1	20.2	21.1	16.7	22.9	20.0	20.8	19.8	20.1	21.4	21.9	18.7	16.4	14.9	10.1	
製造業	30.7	24.7	23.8	17.3	28.0	25.2	24.9	24.0	22.9	24.5	23.9	19.4	17.6	14.9	11.2	
サービス業	30.8	27.3	31.2	29.8	30.5	26.8	28.1	27.0	27.5	32.9	33.1	31.5	31.0	27.0	24.5	
卸売業	24.0	17.0	16.3	14.6	21.7	15.2	18.3	17.4	15.4	16.9	16.7	15.8	13.9	14.0	8.9	
小売業	6.4	4.6	2.8	1.7	2.6	4.0	7.7	2.2	1.9	1.4	5.2	0.6	2.5	2.1	-1.4	
建設業	17.2	20.0	29.8	30.5	18.6	19.9	20.3	19.8	27.6	29.8	32.0	32.7	29.4	29.3	20.0	

出所:Ifo

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

